

チェコ カレル大学の日本語教育 (1994/1995)

岩澤 和宏

I. チェコとスロバキアについて

- 1992年10月28日 (チェコスロバキア共和国独立記念日) チェコとスロバキアの分離を宣言
1993年1月1日 チェコとスロバキアが分離独立
1993年夏ごろ それぞれの新通貨が流通
95年夏現在チェココルナの方が約2割高い。スロバキアから仕送りを受ける学生はその分目減りする事になる。

II. カレル大学及びチェコとスロバキアにおける日本研究について

(1) カレル大学の歴史 (特に日本学に関して)

- 1348年 創立
19世紀より 東洋学開始 (インド・アラビア研究)
1947年 日本学講座開設 日本学科開設 学生募集
1968年 日本学科に22名の学生入学 (それ以前は数名程度) [ブラハの春]
1969年~76年 入学者なし [『正常化』]
1990年 日本学科に22名の学生入学 (それ以前は数名程度) [89年東欧革命]
1991年 国際交流基金より初代日本語講師派遣
1992年 入学希望者192名 36名入学
1994年 定員の20名入学 スロバキア人の新入生0

(2) その他の日本語教育

- 1939年 Vlasta Hilska 「日本語口語教科書」
1943年 東洋語学校 (東洋研究所) にて日本語教育開始
⇒ 52年ブラハ言語学校に引き継がれる
1992年 東洋研究所にて日本語教育再開 - 95年夏現在休講中
JAPAN CENTER (ブラハ) 開設 - 児童・生徒への日本語教育を計画中
1993年 パラツキー大学 (オロモウツ) 日本学科開設 - 現在新3年生約20名在籍
95年10月より新入生20名募集
1995年 「OPEN DOOR」により、高校生3名が日本の高校に留学

(3) 現在のチェコとスロバキアの日本語教育機関

- カレル大学 (ブラハ)
- バラツキー大学 (オロモウツ)
- ブラハ言語学校 (ブラハ) ……英語、独語、仏語に次ぐ学生数 (伊語より多い)
- 東洋研究所 (ブラハ) ……休講中
- コメンスキー大学 (ブラチスラバ)
- ギムナジウム 2～3校 (ブラハ近郊)
- 言語学校 (チェコ各地) ……若干名
- その他非公式な私塾的なもの

III. 現在のカレル大学の日本学科について

隔年学生募集 定員20名 1992年は例外 現在、留年を含めて在籍学生数計75名
 教員 常勤5名 (日本人2名)・非常勤2名
 教育年数5年 (MAGISTER) 3年でBAを取得することも可能
 卒業後の進路 日本企業・博物館・ガイド・通訳・翻訳など
 日本学科カリキュラム (『科目名』・週当りの時間数、一般教養を除く)

1年		2年		3年		4年		5年	
日本語Ⅰ	2	日本語Ⅱ	2	日本語Ⅲ	2	日本語Ⅳ	3	江戸文化	2
日本語練習Ⅰa	2	日本語練習Ⅱa	2	日本語練習Ⅲ	2	古典日本語Ⅱ	2	古典読解	2
日本語練習Ⅰb	2	日本語練習Ⅱb	2	日本語読解	2	日本語練習Ⅳ	2	日本語会話	2
日本語表記Ⅰ	2	日本語読解	2	古典・古語Ⅰ	2	日本史Ⅱ	2	日本経済史	2
日本語表記Ⅱ	2	日本文学Ⅰ	2	日本文学	2	日本語読解	2		
日本事情	2	日本学ゼミ	2	日本学ゼミ	2	現代日本政治社会			
日本語読解	2	通訳翻訳練習	2	日本史Ⅰ	2	日本史Ⅰ	2		
日本文学翻訳ゼミ	2	日本社会	2	日本史ゼミ	1	修論ゼミ	3		
				通訳翻訳練習	2				
				卒業論文ゼミ	2				

IV. 現在のカレル大学の問題について

教室・教員室が不足……教員室兼教室兼図書室がひとつ 授業中は自分の机すら使いにくい
 教授スタッフが不安定……革命後教員総入替 前主任教授が日本へ行ったまま帰って来ない
 教員不足……学生の多様な知的欲求に応えられない
 カリキュラム研究が不徹底
 良いテキストがない (特に初級用) 辞書が少ない
 スロバキア人学生の扱い……92年以前に入学の学生は卒業まで授業料は無料だが、寮費についてはチェコ人より少々高くなったという。
 授業料の徴収を検討中 (既に1年以上)。チェコ人学生で年間1万コルナと聞く (約3万4千円。ブラハの平均年収の10～15%)。スロバキア人等外国人の授業料は不明 (検討中)。